

REPORT
2007
9/27
午後

City Kids Child Care Center

[シティキッズチャイルドケアセンター]



保育

人権意識を醸成する保育

熊本県 善隣保育園 岡田好清

シティキッズチャイルドケアセンターはトロント市の中心部に位置し定員72名の市立の保育施設である。2階建の建物は2003年に建てられた比較的新しいもので、窓を多用し施設全体の採光に工夫がこらされている。玄関入口は嚴重に施錠されており、昨今の不審者対策がいつでも同じという感じを受けた。

最初に、責任者のサンドラ・マックドローリングさんからカナダの保育制度や当施設の保育状況について説明を受けた。

制度面では、カナダでは12才までは子どもを1人にしてはならないという法律があり、受け入れ年齢は0才から12才までと幅が広い。保育士は最低2年間の訓練を受けた後採用される。職員配置は0才が1:3、幼稚園が1:8、学齢児童が1:15で低年齢児に関しては日本とあまり変わらない。日本と異なるのは12才までの受け入れ、幼稚園との二重在籍や他のプログラムへの自由な参加等（例えばスイミングスクールにパートタイムで参加する）、必要に応じたメニューが認められていること。

保育料は年齢別で区分されており、0才~18か月77ドル、19か月~2才半66ドル、2才半以上~5才55ドル、6才~12才33ドルで日本の階層別料金設定に比べてシンプルである。低所得により負担できない家庭へは市が負担し、無料の場合もあるとのことだった。

保育時間は月曜から金曜まで7:00~18:00、延長保育やホリデー保育等の特別メニューは用意されていない。現在トロント市で7,000名の待機児童がおり、この施設でも153名がウエイティングリストに登録されている。

保育内容については、市の子どもサービス課を通して一定のサービス基準が示されており、それに基づいてそれぞれの施設で状況に応じた保育が展開されている。この施設でも質の高い保育を目指すということで、高い基準のプログラムを採り入れている



保育所内

という。子どもたちの自主性を尊重し、自分で問題を解決していく上でのさまざまな場を提供する。玩具や教具、飾りつけ等で子どもの興味関心をひきだす環境構成と保育士によるアドバイスやケアで心身の発達を促す。このことは基本で特に目新しいものではない。要は関わり方の深さだが、一見では判らないものの物的環境は整えられていた。

カナダは多民族、多人種の国であるためその面での配慮がなされている。民族人種を考慮した各種行事、個人ごとの誕生祝いなど、子どもを含めて人権意識が保育スタッフに求められている。職員研修では保育士のためのプログラムとして運動、健康、パソコン、手話、管理技術等が用意されている。また、保護者へのワークショップに子育て、栄養、運動、読み書き等のメニューがあり、具体的な活動の様子を聴くことはできなかったが親支援事業もされている。

日常保育を含め、さまざまな活動の中で人権の視点が重視されており、最近、顕著になってきている児童虐待への応答にも積極的に指導がなされているとのことだった。その効果を図る一助として大学との連携やボランティアとの協働作業が行われている。

説明の後、各保育室や設備を見て廻ったが、総じてアットホームな印象を得た。日本では未だスクー

ル形式の一斉保育が多いが、ここでは部屋に所狭しと教具や玩具が配置され、コーナー型の保育が採用されていた。一方、太陽光と風を防ぐというプレイグランドが設けられてはいるものの、園庭が極端に狭いことが気になった。街の中という制約もあろうが、子どもが伸び伸びと走り廻る野外活動の場も必要と思うのだが。

給食については外からフードサービスがあるとのことで簡単な調理設備が設けられていた。遊具は大小共に強化プラスチック製のものが多くみられ特にこだわりはみられない。施設整備については特に見るべきものはなかった。最後に、今回の視察で得たものは人権意識を保育の場で醸成していくプロセスこそ私たちが学ぶべきことだということである。



昼寝用の簡易ベッド



ベランダに設置された園庭